

富山県技術士会 定時総会と第15回講演会の報告

1. はじめに

富山県技術士会では、平成23年6月25日(土)に富山地鉄ホテルにおいて、平成23年度定時総会、第15回講演会及び交流会を開催しました。

次に示すように、総会と講演会には約50名、交流会にも40名近い方々に参加して頂き、年々盛会となっています。以下に、総会、講演会等の概要を紹介させていただきます。

- ・総会 出席49名+委任状4名=53名
- ・講演会 53名+講師3名=56名
- ・交流会 34名+講師3名=37名

2. 定時総会

定時総会は、事務局長の私が始動時間を勘違いしてしまい、5分遅れでの開始となりました。この紙面をお借りして、再度お詫び申し上げます。

混乱の中、始まった総会ですが、平成22年度の事業報告及び決算報告、平成23年度の事業計画及び予算が承認されました。また、平成23～24年度の役員は、次のとおりとなりましたので、宜しくお願いします。

富山県技術士会 平成23～24年度役員

役職	氏名
代表幹事	森田 清三
副代表幹事, 事業担当	佐渡 正
副代表幹事, 事業担当	吉岡 茂喜
副代表幹事, 業務担当	笹倉 正司
副代表幹事, 業務担当	有澤 良一
副代表幹事, 総務担当	中井 卓
副代表幹事, 総務担当, 事務局	竹内 勝信
事業担当幹事	辻野 篤
事業担当幹事	大塚 哲夫
事業担当幹事	田知 清英
業務担当幹事	大石 守仁
業務担当幹事	市森 友明
業務担当幹事	桜井 幹郎
総務担当幹事	梶川 明美
総務担当幹事	広田 史子
会計監事	穴田 昌
会計監事	高田 正一郎

3. 講演会

講演会では、次に示すようなテーマで、3名の講師の方々にお話をして頂きました。その内容を簡単に紹介させていただきます。

- ・「プロフェッショナル～技術者の思い～」
北陸基礎開発(株) 代表取締役 桜井 幹郎
- ・「立山高山帯における生態系モニタリング」
富山大学 教授 和田 直也
- ・「自然災害対応に関する幾つかの視点」
金沢工業大学 教授 川村 國夫



講演会の状況

(1) 桜井幹郎氏の講演

桜井氏は、北陸基礎開発(株)の代表取締役として社業の発展に努力する他、技術士会、地盤工学会、応用生態工学会などでも幅広く活躍されています。



講演中の桜井幹郎氏

桜井氏の講演は、これらの社業や学会活動を通じて、自分自身が考える「プロフェッショナル」について意見を述べられたものです。

プロフェッショナルの語源から、オウス(誓い)、クレド(信条)について述べ、技術士の責務の大切さについて説明されました。また、パソコンの前を離れ、現場へ行って自分で確かめ、プロに聞いて議論し、失敗

を恐れずに挑戦することがプロに近づくコツであるとのアドバイスがありました。

オウスの話して出てきた「ヒポクラテスの誓い」は、現在でも医師の倫理や責務として重要視されていることを知り、とても勉強になりました。

(2)和田直也先生の講演

和田先生は、植物生態学・環境科学が御専門で、富山大学の極東地域研究センターにおいて、「地球温暖化が高山植物生態系に及ぼす影響に関する研究」などに精力的に取り組んでおられます。



講演中の和田直也先生

和田先生の講演は、地球温暖化の影響を、立山の動植物や気温、降水、積雪などを継続的に調査＝モニタリングして、解明しようとするものです。

地球温暖化が進んでいることは、今や世界の常識ですが、立山など標高の高い所では、日最高気温よりも日最低気温の上昇傾向が大きいですことが示されました。

最低気温の上昇は、雪解けの時期を早め、高山植物の生育期間が長くなり、雷鳥などの動物にも大きな影響を与える可能性があります。

立山などの高山に着目したのは、人間活動によるヒートアイランド現象や水質汚染の影響が少なく、越境大気汚染や地球温暖化の影響を検出しやすいからです。平成22年度からは、環境省でも高山帯における観測が開始されているそうです。

モニタリング対象としている高山植物のチョウノスケソウは、雷鳥と同じ氷河期の生き残り種で、北欧などにも分布しているそうです。雷鳥だけでなく、これらの高山植物を守るためには、地球温暖化の問題に真剣に取り組む必要があると思いました。

(3)川村國夫先生の講演

川村先生は、地盤工学、地盤災害が御専門で、教育、研究だけでなく、石川県や国土交通省などのアドバイザーや委員として、ご活躍されています。



講演中の川村國夫先生

川村先生の講演は、これまでに関係した多くの自然災害を教訓に、防災に対する幾つかの提案について説明されたものです。

2008年の浅野川豪雨災害による斜面崩壊の事例では、集水地形、沢筋、傾斜、植生などをパラメータにGIS解析をすると、約2/3的中率で崩壊、非崩壊が予測可能であるとのことでした。

また、2007年の能登半島地震による盛土崩壊の事例では、2次元安定解析では現場と一致しない場合が多く、3次元安定解析が必要であることを説明されました。

さらに、既存の道路管理システムは、同じ道路で複数のシステムが稼働しており、必要な情報がバラバラであることを指摘されました。健全度や優先度の高い区間を明確にしてコストを削減するためには、システムを一元化、可視化した道路管理総合システムが必要であることを提案されました。

防災の分野でも、GIS、3D解析、システム統合など新しい技術やシステムが必要であり、これらの勉強が必要であると強く感じました。

4. まとめ

講演会の終了後は、隣接する会場で講師の先生方を囲んで交流会を開催しました。今回は、講演内容と東日本大震災や福島第一原発事故を結びつけた話題が多く、大変有意義な交流会となりました。

なお、講演の資料は、次のHPに掲載しています。また、次回の第16回講演会は、平成23年11月19日(土)に開催しますので、是非ご参加下さい。詳細は、次のHP等をご覧ください。

富山県技術士会：<http://petoyama.web.fc2.com/>

(富山 竹内勝信)